

(別紙2)

3. 助成対象事業の成果（結果）

【事業名】 事業名のほか、A事業①②、B事業の別も記入してください。

助成事業のテーマ名 : B

県内中小企業の東欧におけるADAS・EV関連自動車部品等の販路開拓調査事業

【目的〈課題認識、方向性、目標、事業実施計画等〉】

B事業「県内中小企業の東欧におけるADAS・EV関連自動車部品等の販路開拓事業」は、A事業「とっとり出島イノベーションプロジェクト(TDX)」で創設するソーシャルイノベーションデザイナー(SID)育成スクールのプログラム検討に先駆け、特に知識面を補完する形で事業推進するものである。

また、SID育成スクールは、TDXの領域で安全安心な人の移動サービスの提供を目的とした社会実験を通して社会実装でき、社会システムに発展させていくための枠組みを構成できる人材育成をイメージしている。

【成果（結果）〈実施事業の内容・実績、実施した結果生まれた新たな課題等〉】

○実施事業の内容・実績

＜令和2年度＞

青山学院大学への委託による全5回の人材育成セミナー開催(Web開催)

【目的】 青山学院大学「SDGs 人材開発パートナーシップ研究所」では、モビリティ社会に向けた未来型まちづくりを通じて、未来戦略デザイン・ビジネスプロデューサー及びシステムクリエイターの育成プログラムなど、独自かつ先進的な開発・研究を行っており、当該研究成果等を県内企業に学んでいただくことで、本事業の目指す人材育成に寄与することが期待できるため。

【委託先】 学校法人青山学院 青山学院大学

【全体テーマ】 モビリティの社会実装と事業化に係る人材育成

【実施方法】 下記内容のセミナー計5回を実施(Web開催)

第1回 2020年11月17日 「モビリティ社会に向けたMACHIZUKURI」

第2回 2020年12月23日 「自動運転システムの最新動向」

第3回 2021年1月26日 「未来戦略デザイン・システムクリエイター」

第4回 2021年2月19日 「未来戦略デザイン・ビジネスプロデューサー」

第5回 2021年3月5日 「SDGs未来都市とSociety 5.0 for SDGs」

＜令和3年度＞

(1) 欧州のEV活用事例や最新マーケット等の情報収集実施(Web開催)

【目的】 フランスにおける超小型eモビリティ先進活用事例、最新マーケット等について日本貿易振興機構(JETRO)パリ事務所から直接情報収集を行い、A事業にて実施を検討しているADAS・EV実装車両による実証実験及びその後の社会実装の検討に役立てるため。

【実施日】 令和3年4月22日

【概要】

- フランスの環境配慮型交通概況エネルギー、環境政策
- フランスのQuadricycle léger(軽四輪車)
- フランス人気のシェアライドサービス

※当情報は、TDX推進協議会・令和3年度総会(令和3年7月20日開催)において、TDX推進協議会メンバーに提供した。

(2) TDX推進協会セミナー開催（Web開催）

【目的】国内外の交通事情の研究発表の分野に加え、モビリティ問題解決の研究者・コンサルティングの分野においても活躍される講師より、地方における超小型ADASモビリティ戦略に係る講演をいただき、地方都市における高齢化に対応した超小型eモビリティの活用及びパーソナルな移動手段のシステム構築に係る情報を収集し、鳥取新都市において超小型モビリティが活躍する新しい社会・価値創造に向けた社会実装のあり方を模索するため。

【演題】地方が創出するまちづくりのための超小型ADASモビリティ戦略

【講師】森口 将之 氏
株式会社モビリティ 代表取締役

【開催】令和4年3月18日

※当日参加者：9社15名（TDX推進協議会メンバー企業）

＜令和4年度＞

「令和4年度 中小企業経営診断シンポジウム」への参加（機構職員1名）

【日時】令和4年11月8日 12:00～15:30

【場所】東京ガーデンパレス（東京都文京区湯島1-7-5）

【目的】ソーシャルイノベーションデザイナー（SID）育成スクール創設に向けて、イノベーションマネジメントの手法や地域課題解決の取組等に関する最新情報を収集し、プログラムの検討に役立てるため。

【概要】■中小企業診断士による経営革新支援事例論文発表

時 間	内 容
12:30～13:00	イノベーション・マネジメントに基づくコーチング型伴走による経営革新
14:45～15:25	AI（人工知能）を活用した業務効率化とDX推進の取組み

■会員グループによる調査・研究発表／地域支援の具体的なノウハウとその活用事例に関する発表

時 間	内 容
13:00～13:30	地域イノベーションエリアマネジメント調査研究 持続的成長を促す地域連携ビジネスモデルの導入事例
13:40～14:10	未来洞察を応用した外部環境分析の手法の研究・開発

※A事業において超小型eモビリティにADAS機能を搭載する過程で、ADAS分野の技術に関する知識を習得し、当該車両を実際に社会投入し実証実験を行うことで新たな社会システムについて検討する予定であった。

しかし、コロナ禍によるADAS機能搭載作業が大幅に遅延し、当該環境の整備に至らなかったため、令和4年度においては、経費を伴う事業の大半について実施を見合わせる事となった。

【評価〈目標の達成度〉、数値の検証等】

＜令和2年度実施分＞

企画段階において、先端リモートでのOJTトレーニングを模索したが実施に至らず、結果としてすべてリモート形式となった。そのため、リーダー養成に必要な先端的知識のインプットと、各種の先端技術の仕組みを学ぶ重要性を中心とした内容となったが、セミナー主旨が一貫しており、体系的な知識として定着する内容となった。

都合が合わずライブ視聴できなかったメンバーから、後日機構に対してセミナー動画の視聴希望や、資料の問い合わせ等もあり、関心の高さを感じた。

<令和3年度実施分>

- (1) J E T R Oパリ事務所による欧州のEV活用事例や最新マーケット等の情報提供では、欧州における現在の超小型eモビリティの活用事例等の紹介があり、大変興味深い内容であった。

同様の情報をTDX推進協議会メンバーにも提供するため、令和3年度総会の開催（7月20日）において『フランス国内での小型モビリティの実態』をテーマとして、J E T R Oパリ事務所の遠藤氏に講演いただいた。

- (2) 今回のTDX推進協議会セミナー内容の録画はTDXに係る人材育成テキストとしてアーカイブし、任意の時間に何度でも視聴できる環境を機構が提供している。

セミナー終了後に講師先生と参加者との意見交換の時間を設けたが、参加者からさまざまな質問が出て、関心の高さを感じた。

(1)及び(2)により、欧州等先進地のEV活用事例、最新マーケット情報等の提供ができた。

<令和4年度実施分>

地域を巻き込んで事業を展開する場合のポイントや、VUCAといわれる時代の中で未来を洞察するために必要な手法に関する事例等は、SID育成スクールの創設方針の策定においても参考になるものと思料する。

※「VUCA」とは

「Volatility（ボラティリティ：変動性）」「Uncertainty（アンサートウンティ：不確実性）」「Complexity（コムプレキシティ：複雑性）」「Ambiguity（アムビグニティ：曖昧性）」の頭文字を並べたものであり、社会あるいはビジネスにおいて、不確実性が高く将来の予測が困難な状況であることを示す造語。

【今後の進め方（波及効果を含めて）をどうするのか】

本事業終了後も、A事業の中で継続してSID育成スクールのプログラム検討を実施し、超小型モビリティに係る先進事例及びイノベーションマネジメント手法の研究成果に加えて、ADAS・EV実装車両による実証実験データを有効活用することで、高齢化、交通インフラ不足などの課題に直面する地域社会に適応した新しい社会システムの構築が可能な人材育成を目指す。

注1）上記項目について詳細に記載してください。

注2）成果（結果）の内容について、別途、お伺いすることがあります。

注3）成果物（報告書・アンケート集計物・DVD等）、記録用写真等があれば提出してください。